

## 今頑張らずにいつ頑張る

今年の夏は猛暑でした。そんななかでも笠井栞那さん・白倉鞠衣さんの全日本少年少女武道（なぎなた）練成大会の2位入賞をはじめ、県大会や県総体での活躍、関東大会、そして全国大会等での玉中生の活躍が大変顕著でした。たくさんの賞状と大健闘であった夏の様子が届いています。感染症と闘いながらの大会参加で、いろいろ大変だったと思いますが、本当によく頑張っていました。勉強に部活動にと、この夏は、みなさんにとって、きっと有意義な夏になったことでしょう。

しかし、残念なことに新型コロナウイルス感染症の猛威は勢いを増し、県内でも感染者が1000人を越える日があり、全国的にも感染者数は高止まりの状態が続いています。そんな状況ですが、2学期がスタートしました。はじまってすぐに、緑水祭が予定されています。緑水祭を成功させるためにも、今後の教育活動を守るためにも、これまでと同様に、感染対策に留意しながら、今学期も頑張っていきましょう。保護者の皆様方におかれましては、引き続き、感染対策等にご協力をいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

### 「今こそ出発点」

人生とは毎日が訓練である  
わたくし自身の訓練の場である  
失敗もできる訓練の場である  
生きているのを喜ぶ訓練の場である

今この幸せを喜ぶこともなく  
いつどこで幸せになれるか  
この喜びをもとに全力で進めよう

わたくし自身の将来は 今この瞬間にある  
今ここで頑張らずにいつ頑張る



この言葉は、京都大徳寺大仙院（だいとくじだいせんいん）閑栖（かんせい）の尾関宗園（おぜきそうえん）さんのものです。私が、以前修学旅行で大仙院を訪れた際、尾関さんとお話する中で、紹介された言葉です。今日から、新学期スタート「今こそ出発点」の気持ちで生活していけるといいですね。「今」「ここ」ですべきこと、できることに全力集中して、この一瞬を精一杯に生きる！その一瞬一瞬の積み重ねが一日となれば、それは今までにない、素晴らしい一日となるはずです。一日一日を大切に、しっかり生活していきましょう。

### <始業式での生徒の決意表明>

一番楽しみにしている緑水祭が2学期にあります。先輩方の行動を見て自分たちも積極的に活動したいと思えます。緑水祭を成功させるためには個人やクラスの頑張りももちろんですが、学校全体が一丸となって取り組むことが大切だと思います。そのためには相手を思いやる気持ちが必要です。全員が笑顔の緑水祭をつくっていきたいと思えます。（1年3組 梅津 果歩さん）

2学期は、学年スローガンにもあるように切磋琢磨して成長していきたいです。僕たちは緑学年として、緑水祭では緑組として、みんなを支え合い、努力し続ける、理想の集団を目指し、みんなで楽しくドリームをつかみ、凛とした花を咲かせられるように頑張りしたいと思います。（2年2組 志村 咲太郎さん）

私は2学期に頑張りたいことが2つあります。まずは勉強です。受験生である私たち3年生にとっては今までの復習と日々の勉強の積み重ねが大切です。苦手分野を克服し確実に目標を達成していきたいです。そして学校行事です。私たちにとってはすべての行事が最後ですが、特に緑水祭は全力で取り組みたいです。これまでの生活の中で培ってきたクラスや学年の団結力を合唱でも体育の部でも発揮したいです。(3年2組 三井 愛夢さん)

今学期は最大行事である緑水祭が予定されています。『飛翔～羽ばたけ338の翼で～』のテーマのもと、一人一人が大きく成長できるように、練習を重ね、各クラス、各学年、全校が絆を深められるようにしましょう。行事が多い2学期ですが、こんなときこそ相手を思いやる気持ちを忘れずに、仲間との時間を無駄にせず一分、一秒を大切にしていきたいです。(生徒会代表 雨宮 清香さん)

## 原爆投下、そして終戦から77年・・・

さて、過日私たちは令和4度目の「8・15」を迎えました。戦争体験者は高齢化が進み、若者の意識も低くなる傾向は否めませんが、世界では現在でも戦争が続いています。戦争の悲劇を二度と繰り返さないために、戦争の記憶を風化させないために、時代が変わっても、歴史を振り返り、平和の大切さを考える機会としたいと思います。

被爆77年となる広島「原爆の日」の平和記念式典で、広島市の小学生が「平和への誓い」を読み上げました。ここに紹介します。

### 平和への誓い 広島・原爆の日

あなたにとって、大切な人は誰ですか。家族、友だち、先生。私たちには、大切な人がたくさんいます。大切な人と一緒に過ごす。笑い合う。そんな当たり前の日常はとても幸せです。

昭和20年(1945年)8月6日午前8時15分。道に転がる死体。死体で埋め尽くされた川。「水をくれ。」「水をください。」という声。大切な人を一瞬で亡くし、当たり前の日常や未来が突然奪われました。

あれから77年経ちました。今この瞬間も、日常を奪われている人たちが世界にはいます。戦争は、昔のことではないのです。猛暑の夏でした。

自分が優位に立ち、自分の考えを押し通すこと、それは、強さとは言えません。本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。本当の強さをもてば、戦争は起こらないはずです。

過去に起こったことを変えることはできません。しかし、未来は創ることができます。悲しみを受け止め、立ち上がった被爆者は、私たちのために、平和な広島を創ってくれました。

今度は私たちの番です。被爆者の声を聞き、思いを想像すること。その思いをたくさんの人に伝えること。そして、自分も周りの人も大切に、互いに助け合うこと。

世界中の人の目に、平和な景色が映し出される未来を創るため、私たちは、行動していくことを誓います。

令和4年(2022年)8月6日 こども代表  
広島市立幟町小学校 6年 バルバラ・アレックス  
広島市立中島小学校 6年 山崎鈴

